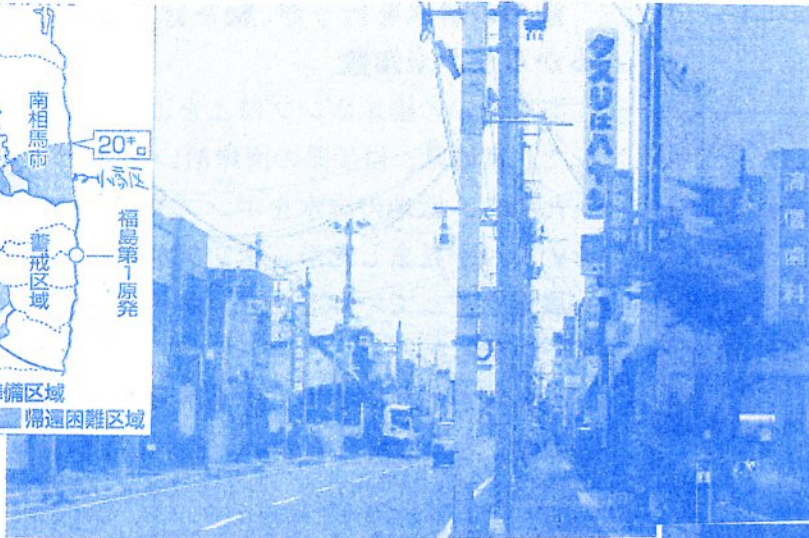
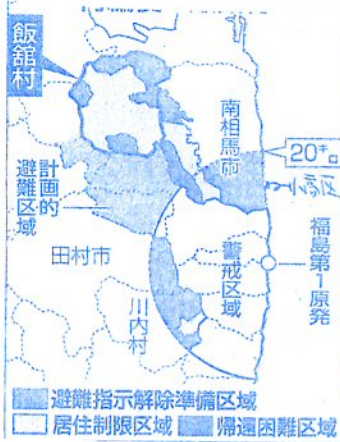


原発ゼロへ、福島の被災者支援・復興を

日本共産党川西議員団で福島県庁・南相馬市など訪れました

最終処分場が決定しなければ除染は始まらない



福島第一原発から 20 キロ圏内のうち、南相馬市小高区などが4月16日に「避難指示解除準備区域」になり、許可なく宿泊なしの一時帰宅ができるようになりました。

その南相馬市小高区へ、現地の渡辺市議員の案内で訪れました。

20キロ地点から様相は一変しました。

それまでお店屋さんもあり、人も歩く姿が見えていたのが全くなり、深い眠りについているような感じを受けました。

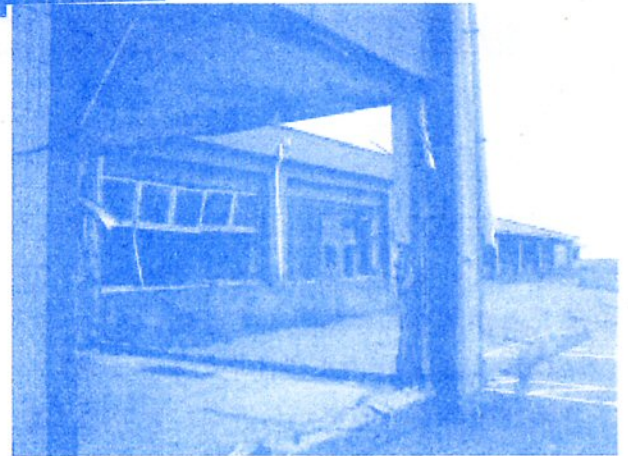
壊れた建物跡地とか道路端に花など飾られてあり、犠牲者の出たところだとすぐわかる状況があちこちにありました。

写真は高齢者の介護施設、平屋建てであり、海岸から数キロの地点であるにもかかわらず人の背丈以上の津波が押し寄せ、多数の犠牲者を出していました。

小高区は、津波による被害だけでなく、地震による倒壊家屋も多数あり、緊急を要するところから撤去作業が始まったばかりとのこと。

土蔵造りも目立ち、古い家屋は確実に壊されていました。

今でも放射能線量が高いはずですが、空気を吸っている限りは、においも含めて違和感はありませんでした。除染作業はまだまだとのこと。



よし

くらしの

「由さん」の 便り

2012年 7月 295号

川西市議会議員（日本共産党）

住田由之輔 すみだよしのすけ

連絡先・下加茂 1-24-23

ケイタイ 090-9283-6739

南相馬市だけで川西全域分の田畑が津波被害

「いつかはこの地を昔の姿に」の思いで各地に散らばる



200ヘクタールの田んぼが沼となった地域
懸命の排水を行うが、稲を育てることができ
るかどうか未知数

海岸沿いの排水ポンプはことごとく破壊されま
した。宮城県、岩手県の海岸沿いを4月に見て回
った時も、低地の排水をポンプで行っていた田圃
をいくつか見ましたが、ポンプが壊れ、将来的に
も農業をやっているかどうか各地で突きつけら
れていました。

小高区もまた同じで、排水が終わった後どうす
るのか、みんな戻れるのか、定まっていません。

浪江町からの避難者に仮設住宅でお話を聞きました

「今日、明日何をしたらいいのか教えてほしい」と痛切な訴え

仮設住宅では「話をお聞きするしかないだろう」
と聞いていましたがその通りでした。一方国に対す
る怒りが強くわきあがってきました。

(写真は福島市内仮設住宅のトタン壁)

浪江町は第一原発から近く、大半は「警戒区域」
になっており、帰宅には許可がいきます。特に海岸
沿いは10キロ圏内に入っており、将来への計画も
全くの見通しが立たない区域です。

「自分たちの生活を壊しておいて、将来どうなっ
ていくのか見通しも立てることができない中で、大
飯原発再稼働なんて、人間のやることではない」と
怒りをあらわにして訴えられました。

「安全対策どころか、責任をだれも取らず、何が
安全かと言いたい」とのたくさんの方の思いでした。

やっぱり視察に来てよかったと思いました。国民
の命を守るはずの「政治」がここでは機能していな
いどころか、半ば見捨てられている状況です。町か
らも、県からも、国からも情報が入らず、いらいら
と毎日を過ごされている。この現状を身近な人に知
らせなければと思いました。

帰り際にご婦人二人が、「共産党さんには助けられ
ています。必要な物資を届けていただいて」との言
葉に、少し気持ちが晴れました。

